



ウクライナ・パレスチナ 戦火拡大 ～ 戦争は始めたら終われない ～

ロシアのプーチン大統領は繰り返し核使用をひけらかして威嚇し、欧米がウクライナへの支援を拡大するのを防ごうとしています。

ウクライナはアメリカに長距離ミサイルの提供を求めましたが、バイデン政権はNATOとロシアの戦争になることを避けようとしてきました。しかし大統領選挙後、ロシアが北朝鮮の軍を導入したことを理由に方針を変えたと言われ、長距離ミサイルを提供しロシア領内への攻撃も可能にしたと伝えられます。

北朝鮮は1万人とも言われる兵力をロシアに派遣し、見返りに防空システムやミサイル技術などの提供を受け、ICBMを完成させたとアメリカを威嚇しています。

パレスチナではイスラエルがハマスとそれを支援するレバノンのヒズボラをせん滅するとして、戦線を拡大しています。ネタニヤフ首相自身が国内でも訴追されているため、いっそう強硬な路線で世論を味方にしようとしています。余りにも残忍なその戦争遂行に国際世論の批判も高まりネタニヤフ首相にたいして、ICC国際刑事裁判所が戦争犯罪で逮捕状を発行し、アメリカはこれの対抗措置を講ずる……。ますます複雑になりつつあります。いったん始まった戦争は当事者がそれぞれの正当性を主張し、その論理で国内をまとめようと図ります。そしてそれに反対する世論を狂暴に封じようとします。引き返すことがどんどん難しくなっています。

戦争は勝つか負けるかではなく、いかに戦争を起こさないかこそ重要という世界の世論は高まりつつあります。

レバノンとは

東西交易の要衝としてイスラムのスニ派、シーア派キリスト教の新・旧・正各派などが入り混じる地域だった。第一次大戦後オスマン帝国が滅び、一時フランスの信託統治となったが、政権はこれらの勢力のバランスの上に作られ、第二次大戦中独立した。

大戦後のレバノンは自由経済を採用し、金融や観光などの分野で国際市場に進出して経済を急成長させ、首都ベイルートは中東経済の中心地となり、また地中海有数の国際的リゾート地として、数多くのホテルが立ち並ぶなど大いに賑わい、「中東のパリ」と呼ばれるようになった。しかしイスラエルが建国され、反対するPLOが結成され、シリアやイランのイスラム革命防衛隊の支援を受けたヒズボラの勢力が拡大。宗派間の対立内戦が起こるとシリアやイスラエルが介入し大国も加わって統治能力が不安定なままである。

在日米軍の中樞が六本木に？

自衛隊と在日米軍の指揮・統制枠組みの見直しに伴い、米軍が横田基地（東京都福生市など）に置く在日米軍司令部を東京都心に移転させることを検討しています。東京都港区六本木にある米軍の「赤坂プレスセンター」が候補として上がっているといえます。

現在、米軍横田基地にある在日米軍司令部は、基地の管理などに権限が限られています。これに対し統合軍司令部には、ハワイの米インド太平洋軍司令部が持っている在日米軍の作戦指揮権の一部が与えられます。

その自衛隊は陸海空の部隊などを一元的に指揮するため、「統合作戦司令部」を市ヶ谷の防衛省に本年度末に新設することになっており、日米軍の司令部は目と鼻の先、約4キロの距離となります。

狙いは、平時から戦時までの米軍と自衛隊の戦術や装備、後方支援などの共通性（相互運用性）と、共同訓練や共同作戦など実際の活動での協力をさらに深化・促進させることです。しかし米軍は自衛隊に比べ、情報量でも装備面でも圧倒的に優越しています。“共同”とは言っても、自衛隊が米軍の事実上の指揮下に組み込まれることは避けられません。

自衛隊に創設する「統合作戦司令部」に対応するもので、現在はハワイに司令部があるインド太平洋軍が担っている作戦指揮の権限を持つことになります。

防衛省は、「調整がしやすくなり、自衛隊と在日アメリカ軍の連携が進む」としていますが、連携がスムーズにいくというのは「アメリカ軍との一体化が強まる」ことです。例えばミサイルが発射された情報があつたら、直ちに反撃（敵基地まで攻撃）するのを誰が決めるのでしょうか？あつという間にアメリカの始める戦争に巻き込まれる危険ささえあるのではないのでしょうか。

赤坂の米軍基地

京都区部にあるアメリカ軍基地の一つで、在日米陸軍が管理している。前身は旧日本陸軍歩兵第3連隊の駐屯地で、現在は星条旗新聞（軍の情報誌）などの事務所、宿泊施設、ヘリポートとして使用され、大統領など来日する米政府要人の移動拠点としての役割も担っている。トランプ前大統領の移動にも使った。



イスラエルの反戦兵士の話

東京では都立学校の卒・入学式などで日の丸を掲げ、君が代を歌うことを業務命令で強制し、従わなかったものには処分を科している。その数約500人。石原都政以来20年、裁判で闘っている人たちを励ます集いが日比谷で行われた。そこで講演したのはイスラエルの元兵士ダニー・ネフセタイさん、その一部を紹介します。

国のために死ぬのは素晴らしい？



高校卒業後イスラエル空軍に3年間所属し、退役後の来日をきっかけに日本人女性と結婚。2008年のガザ紛争を機に非戦を訴え始めた。自分はリベラルな家に育ったが、**国のために死ぬのは素晴らしい**と教えられた。

「今回はイスラエル国内の

世論が以前よりも強硬だ。『私たちこそ被害者』という思いをずっと抱いている。イスラエルでは男子3年間、女子も2年間の徴兵制がある。軍隊経験から「私も当時、国のために戦う自分が正しいと思っていた。学校ではヨルダン川西岸はすべてイスラエルの土地でそこにパレスチナ人が不法に占拠しているという地図で教えられている。イスラエルではパレスチナの人を人間と見ない。そのため国を守るため殺しても平気だ。イスラエルでは戦闘機のパイロットが最高の英雄で自分もなりたかった。

軍の中では①差別する。いい側と悪い側、人と動物と同じ。②人間のランク付けをし、上級の命令には従う③人を殺しても罪はない④解決方法は武力……などの教育が徹底する。しかし自分も時間がたてば誤りに気付く。勝った側も多くの兵がPTSD、うつ、自殺などになり、家族を含め多くの人を巻き込む。

戦争は避けられないか？イスラエルとパレスチナは1998年ガザとテルアビブが姉妹都市となった。敵の概念は人間のDNAにはない。教育の結果だ。核兵器を抑止力などと言うがイスラエルでもウクライナでも核兵器が抑止力になっていない。ガザ侵攻への批判がはばかれる空気は欧米諸国でも顕著だ。米ハーバード大の学長が大学内の反ユダヤ主義の高まりを容認したと辞任に追い込まれたり、欧州各国で親パレスチナの反戦デモを規制する動きが目立った。

この空気の背景には何があるのか。「ナチスのホロコースト（ユダヤ人大量虐殺）」という第2次世界大戦の負の歴史。この呪縛が欧米諸国、特にドイツでは非常に強く、ユダヤ人国家のイスラエルに何も言えない」と言われる。

イスラエル国内で非戦を唱えるのは難しい。しかし話し合うしかない。

元大臣が馬毛島を中国に？

11月25日の朝日新聞にこんな記事が……

2019年の夏、政府が鹿児島^{まげしま}の馬毛島（当ニュースで何度か紹介）を自衛隊の基地にし、米軍機の訓練をする計画をしていた。ところがこの島の殆どを所有する立石氏が中国企業から資金提供の打診をされたという情報。その企業は国営企業であり、その陰に日本の閣僚が見え隠れしていた。その人物は元五輪相の桜田義孝氏。土地が中国資本に渡れば、基地の計画は挫折する。防衛省は慌てた。なんとか立石氏の要求を値切って説得。中国に渡るのを防いだ。中国側は「目の前に米軍の訓練基地が作られようとしている」と神経をとがらせているのだ。

若者たちに平和の呼びかけを 成人式の参加者へ

どうぞ一緒に来年も成人式は20歳の集いとして開催されます。

1月12日（日曜日）キッコーマン アリーナ

開催は対象中学校別に10：00 12：30の2回に分けて開催されるが当会としては、第一回のみ対応
9時30分～ 受付 10時00分～ 式典
10時30分～ 記念行事（11時00分 終了予定）
となっていますので

○当日 1月12日（日）9：00

キッコーマンアリーナ駐車場に集合

会場入り口などでチラシを配布する予定

標的 九条の会・流山 映画上映会

日時： 12月8日（日）
13:30開場 14:00開会

場所： 流山市生涯学習センター
つくばエクスプレスセントラルパーク駅徒歩5分
C401会議室

参加費：500円 学生・18才以下無料



「慰安婦」だった韓国人女性の証言を伝える記事を書いた朝日新聞大阪社会部記者の植村隆。安倍晋三が政権に復帰した後「捏造記者」と彼への執拗なバッシングが始まり、彼が教職に就くことが内定していた大学、そして家族までもが卑劣な脅迫に曝された。なぜ彼だけが「標的」にされたのか？一方、不当な攻撃によって言論を封じ込めようとする動きに対抗するために、大勢の市民や弁護士、マスコミ関係者らが支援に立ち上がった。

「九条の会・流山」宣伝と署名

◆12月9日（月）15：30
おおたかの森駅自由通路

カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130-5-464735 口座名 九条の会・流山